

平成 31 年度 学科 AO 入試 総合考査 問題用紙【スポーツマネジメント学科】

試験時間：60分

.....
1984 年のロサンゼルスオリンピック競技大会は、それまでのオリンピック競技大会（以下、「オリンピック」という。）とは違い民営化された大会であり、ここからオリンピックの商業化が進展したといわれています。このことを踏まえて、以下の問に答えなさい。

問1. 資料 1 を参考にして、モンテリオールオリンピック競技大会及びロサンゼルスオリンピック競技大会の各々の大会開催の特徴を説明しなさい。

問2. 資料 2 及び資料 3 にみられるように、これまでオリンピックの商業化が進展してきました。オリンピックの商業化の功罪（よい点、悪い点）とはどのようなものかを示したうえで、今後のオリンピックの商業化について、あなたの考えを述べなさい。

＜資料 1＞モントリオールオリンピック競技大会及びロサンゼルスオリンピック競技大会の大会開催収支

(単位:米ドル)

モントリオールオリンピック競技大会	
収入	4 億 3,000 万
TV 放送権料	3,200 万
入場料	2,700 万
記念硬貨・切手	1 億 1,500 万
収益部門事業	900 万 (内 スポンサー協賛金 418 万)
宝くじ	2 億 3,500 万
その他	1,200 万
支出	14 億 2,000 万
設備費 (オリンピック公園整備費、選手村整備費、スポーツ設備費等)	12 億 1,300 万
運営費	2 億 0,700 万
収支差引	△9 億 9,000 万



欠損(赤字)の補填の内訳	
モントリオール市の負担	2 億 0,000 万
ケベック州・カナダ政府・宝くじの負担	7 億 9,000 万

ロサンゼルスオリンピック競技大会	
収入	7 億 4,656 万
TV 放送権料	2 億 8,653 万
入場料	1 億 3,983 万
記念硬貨	2,970 万
スポンサー協賛金	1 億 2,319 万
—	—
その他	1 億 6,730 万
支出	5 億 3,156 万
—	—
運営費	5 億 3,156 万
収支差引	2 億 1,500 万



収益(黒字)の分配の内訳	
米国オリンピック委員会	1 億 2,900 万
ロサンゼルス・アマチュア・アスレチック財団	8,600 万

* 資料 1 は、モントリオールオリンピック競技大会及びロサンゼルスオリンピック競技大会の大会開催報告書から作成。

* ロサンゼルスオリンピック競技大会の収益(黒字)の分配額は、残余財産の帰属先(米国オリンピック委員会 60%、ロサンゼルス・アマチュア・アスレチック財団 40%)に基づき算出。

<資料 2>オリンピック競技大会における放送権料収入の推移

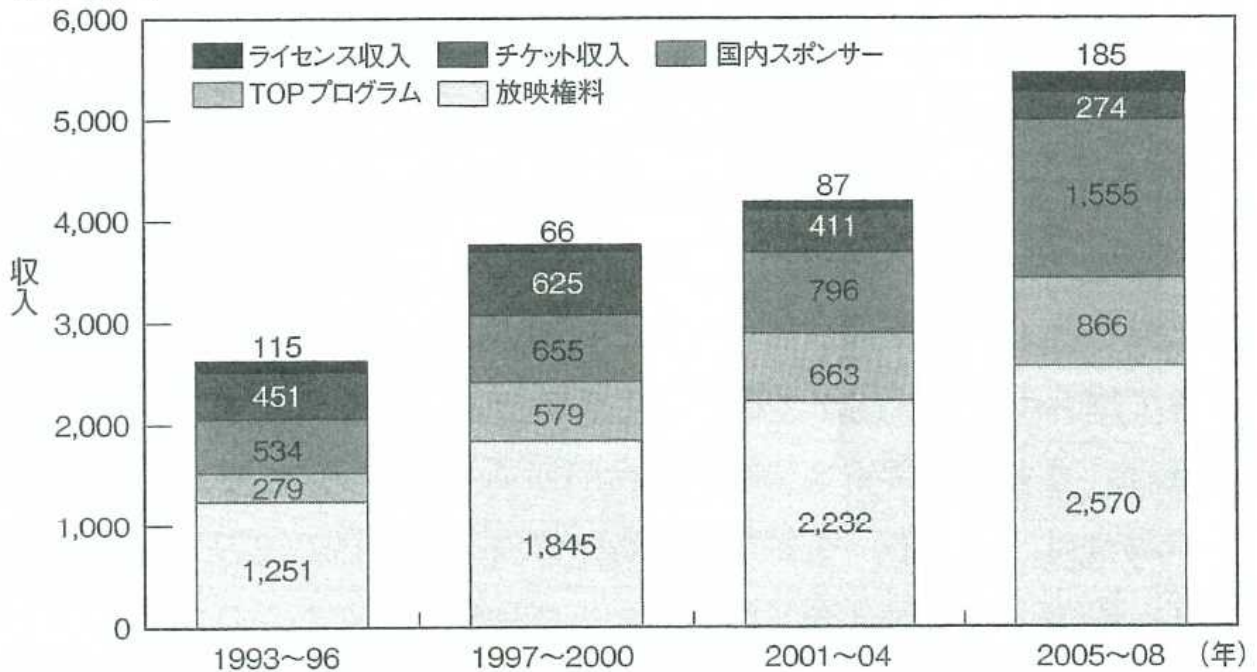
(単位:100 万米ドル)

大会	放送権料収入
1960 年ローマ	1.2
1964 年東京	1.6
1968 年メキシコ	9.8
1972 年ミュンヘン	17.8
1976 年モントリオール	34.9
1980 年モスクワ	88
1984 年ロサンゼルス	286.9
1988 年ソウル	402.6
1992 年バルセロナ	636.1
1996 年アトランタ	898.3
2000 年シドニー	1,331.6
2004 年アテネ	1,494
2008 年北京	1,739
2012 年ロンドン	2,569
2016 年リオデジャネイロ	2,868

* 資料 2 は、INTERNATIONAL OLYMPIC COMMITTEE ,OLYMPIC MARKETING FACT FILE 2012 EDITION から作成。

<資料 3>オリンピックの収入推移とその内訳

(100万ドル)



(出典) IOC公式サイト「OLYMPIC MARKETING FACT FILE」.